

組織行動研究

No. 20

編集後記にかえて

●表出行動の研究材料として筆跡の有利な点はいろいろある。

通常、表出行動は「話し方」や「歩き方」、「身振り」「しぐさ」「表情」など、動いているものが多い。それらを「写真」・「ビデオ」にとることは出来るが、何時も担いで廻るわけにはいかない。もし、そうしても「シャッターチャンス」を把えるのは非常にムズカシイ。又、カメラを意識すれば、不自然になる。

その点、筆跡は表出行動を記録にとどめた殆んど唯一のものとも云える。勿論、カメラを担いで廻る必要もなければ、不自然になることもない。「表出の跡」がそこに残されているからである。従っ

て、その跡を手がかりに追跡していくことが出来る。丁度、シャーロックホームズが足跡から、体格、性格などを類推するのと同じである。

書字行動の「跡」であるから、実験室に来てもらう必要もないし、「過去の筆跡」でもよい。又、プライバシーの問題は措くとして「他人の筆跡」でもよい。勿論、歴史上の人物でもよい。時間・空間を超えてデータを収集できる。

●何ヶ月前か、歴史関係の月刊誌で坂本竜馬の特集をやったことがある。その時、竜馬の筆跡から性格を類推してほしいと依頼された。筆跡は如何にも竜馬らしい奔放な書き方であった。

●対照的なのが、2~3年前のことであろうか。例の宮崎勤の投書が新聞に載った時のことである。アノ時は研究室に記者がやってきたり、テレビカメラが持込まれたり、一寸した騒ぎに巻き込まれた。

それはともかく、宮崎勤の筆跡は相当特異なものであった。ご覧になった方も多いと思うが、まるでガリ版を切ったような強迫的な書き方であり、仮りにワザと書いたにしても常人にはとても書けないような筆跡であった。而も、あれ丈、克明に書くのにはどれ丈の時間がかかったのか。内容・行動も含めて、日常生活——つまり、人並みの仕事をした上で——家

族・同僚・近所の人にも怪しまれずに生活することが可能だろうか。可能だとしたら、どんな人間か。どんな状況なら可能なのか。殆んど考えられないと思ったことを記憶している。

結果は、御存知のように、まさにそのようなことが可能な環境に恵まれた?! 特異な人物であった。

“ナルホド! コンナ人間が生きているなら確かにありうるワイ” と思い、今更乍ら、現代の都市生活の恐ろしさ、親の過保護、しめつけのないことの怖ろしさを思い知らされた気がしたものである。

●話は変わるが、本文にあるような手続きをへて、「ひらがな」44文字はいくつかのクラスターに分類できた。それらの各クラスターの代表と、独自の形態印象をもつものを考慮して「え」「ふ」「か」「く」「ま」「め」「り」「る」「た」「ち」「や」「よ」の12種類をえらんだ。

併し、この羅列は覚えにくい。そこで、大蔵省の予算案のひそみに倣って「ゴロ合わせ」を試みた。いろいろ試みた中の一つが「田町振り返る役目よ」というのである。併し、これは田町駅で降りるKOの人間には通じても一般的とは云いがたい。そこで、田町をひっくりかえして「ちまたふりかえるやくめよ」とした次第である。

忙中閑有か? 阿々。

慶應義塾大学産業研究所社会心理学班研究モノグラフ

組織行動研究 (第20号)

責任編集 榎田 仁・南 隆男

KEIO STUDIES ON
ORGANIZATIONAL BEHAVIOR AND
HUMAN PERFORMANCE No. 20
APRIL 1991

〒108 東京都港区三田 2-15-45
発行 慶應義塾大学産業研究所
電話 03-(3453)-5640 (直通)
<平成3年4月28日>

〒104 東京都新宿区高田馬場 3-8-8
印刷 株式会社 国際文献印刷社
電話 03-(3362)-9741 (代表)
<平成3年4月21日>